

「アジアSEND派遣参加報告書」

京都大学文学研究科修士1年 吉田絵弥

今回のタイ派遣では、人口移動と介護をテーマに、日本人高齢者の国際引退移動（International Retirement Migration; IRM）と、在タイ日本人およびタイ人の医療・介護について、フィールドワークを行った。

IRMについては、バンコクとチェンマイでロングステイの日本人会を訪問し、IRM実践の個人的／一般的状況や住み続ければ問題になってくる医療・介護についてお話を聞かせていただいた。東南アジアへのIRMは、しばしばメディアで「少ない年金で豊かな生活」「悠々自適」などと宣伝されるが、このような均質なものではなく、多様性をもつことがわかった。タイでは二重の経済的構造があり、日本のような生活やタイ人上層のレベルの生活を求めれば日本と同じかそれ以上の費用がかかる。たしかに少ない費用で生活可能だが、そのためには一般的なタイ人と同じ水準で暮らす必要がある。日本人高齢者はIRMを通じて、居住地、食事、娯楽など生活の位相ごとに自らの価値を置く位相を選別し生活していることが確認できた。

在タイ日本人高齢者の医療・介護については、バンコクの私立病院、バンコクとチェンマイの介護事業を展開する日系企業3社を訪問し、お話を聞かせていただいた。近年ケアを求めたIRMが報告されているが、タイでの日本人向けの事業展開は、介護が市場化されていない・適切な人材がない・日本のような介護を行うには多額の費用がかかる等の理由から現状では困難であることが確認できた。

タイ人の医療・介護については、チュラロンコーン大学看護学部、人口学研究所、老人クラブ集会、福祉サービスを提供する寺、ならびにタイ政府機関を訪問し、学ばせていただいた。タイでも高齢化が急速に進み、介護体制を整える必要性が高まっているが、タイは日本を含む高齢化先進国を批判的に参考にして、コミュニティケアを重視した介護体制の構築を試みていることが確認できた。

IRMは世界的に起こっている現象であり、調査ではバンコク、チェンマイのドイツ人ともお話をさせていただいた。次回調査の際には他のドイツ人退職者の紹介も依頼しており、今回の調査は修士課程での勉強・研究を進めていく上で重要な経験となった。人口移動のみならず、少子高齢化や社会保障の問題はグローバルな視野をもって考えていくべき課題で、今回のタイ派遣はその意味でも有意義であった。

このような貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。